

## 『ベビーふとん』について

赤ちゃんは大人より体温が高く、水分も多いので、保温性：吸湿性に優れた木綿わたを入れたふとんが最適です。木綿わたの保温性は人の体温を保ちます。ポリエステル等の化繊わたは温度が上がる一方ですから、体温以上に熱くなり、又、吸湿性がありませんから、汗も籠もり、掛けふとんを剥いだりして、かえって寝冷えする場合があります。敷ふとんの弾力性も、木綿わたは身体を支えます。化繊わたは比重が軽いので、身体が沈んでしまいます。これらのことは大人の場合にも当て嵌まるのですが、特に赤ちゃんには木綿わたの入ったふとんをお奨めします。赤ちゃんは初め首も据わらず、骨も柔らかいので、ふわふわして身体が沈むような敷ふとんはよくありません。腰の強い、身体を支え上げるような、弾力性に優れた木綿わたを堅めに入れた敷ふとんが良いです。しかし、化繊わたを板のように硬く固めた敷ふとんも出ていますが、あまり硬すぎても良くありません。赤ちゃんは身体も、皮膚もとても柔らかく弱いので、床ずれになりやすいです。赤ちゃんはオギャーオギャーと泣きます。それが運動です。その時お腹の上の、掛ふとんが軽すぎますと力が入りません、フギャーフギャーになります。ですから比重のある木綿わたを軽めに入れます。

澤田清子